

定時制高校生の社会的自立支援のための基礎的研究

—地域、大学、高校との交流プログラムの検討—

042

○古賀由紀子、坂井邦子、久佐賀眞理、茶屋道拓哉、甲斐村美智子

九州看護福祉大学

I はじめに

定時制高校は中学校を卒業しても、いろいろな事情で全日制高校に進めない生徒たちの教育の機会均等を保障するために作られた。2006年の定時制生徒の生活実態調査(熊本県)では、中学卒業後すぐに入学した生徒が6割強で、残り4割の入学直前の履歴を見ると、就職の他に定時制・通信制・全日制の学校から再入学した生徒たちが多くを占めており、全日制の生徒に比較し、家庭や経済的問題、健康問題に対する悩みの割合が高く、様々な困難を抱えた生徒の割合が高いことが報告されている。

II 目的

研究の主目的は定時制高校生徒の社会的自立を支援するプログラム開発である。

2年目を迎えた今年は、支援課題をより焦点化するために、生徒の実態を何らかの方法で客観的に把握したいと考えた。そこで本研究では定時制生徒の自己肯定感の実態を明らかにすることを目的にした。

III 方法

調査時期：1回目調査を平成22年5月、2回目調査を平成22年12月に実施した。

対象及び方法：A高校定時制に在籍する1～4年生 58名(男性32名 女性26名)を対象に、研究メンバー運営の6回の出前講座実施前の5月と実施後の12月に平石が開発した自己肯定尺度を用いて、無記名式質問調査を行った。対自己領域(下位成分—自己受容、自己実現的態度、充実感)、対他者領域(下位成分—自己閉鎖性・人間不信、自己表

明・対人的積極性、被評価意識・対人緊張)で構成された41の質問項目を5件法で記入を依頼した。

IV 結果および考察

今回の調査は、対象数が少なく比較分析する材料が少ないが以下に結果と考察を述べる。

1. 定時制と平石調査(全日制)の比較

「被評価意識・対人緊張」は平石調査(全日制)より低かった。定時制という環境の中での彼らは、学校環境に適応していると思われる。

2. 学校生活の影響

学校生活の影響を見るために、1年生と2年生以上についてt検定を行った。2年生以上は1年生に比較し自己実現的態度が高かった。自己実現的態度は、進路意識との相関が報告されている。その意味では2年生以上は、5月時点で1年生より進路意識が高いと思われる。自己肯定意識得点を学年比較すると、1年生の自己実現的態度が12月に大きく改善している。学校側が力を入れているキャリア教育や今回の社会的自立支援プログラムの影響も考えられる。

検討課題：①我々の取り組みの評価をどのようにしたらよいか。②支援をどのようにしていくか。自己肯定感や評価に詳しい方、定時制高校に詳しい方の参加をお願いします。

連絡先：古賀由紀子、九州看護福祉大学

熊本県玉名市富尾888

e-mail:koga3909@kyushu-ns.ac.jp